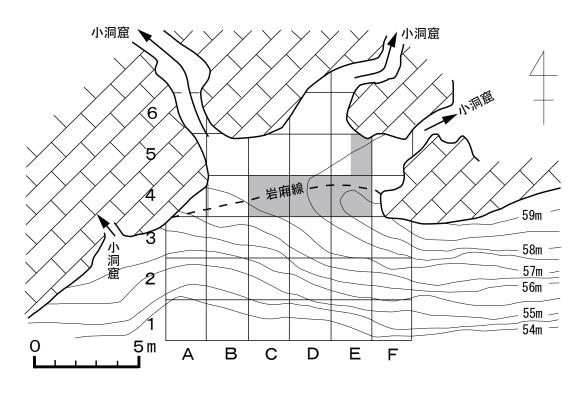
いわかげ No. 122 — 2011, 8, 11 広島大学文学研究科考古学研究室・ 帝釈峡遺跡群発掘調査室

帝釈大風呂洞窟遺跡は、広島県神石高原町永野字大風呂に所在します。遺跡は帝釈観音堂遺跡の直上の急斜面上に立地し、標高は約460 mで、帝釈川の支流岩屋川との比高差は約57 mあります。洞窟は南に開口しており、日当たりが良好な場所に位置しています。開口幅は約11 m、奥行約4 m、岩廂までの高さは3~3.5 mで、洞窟内外の平坦面の面積は約40 m²となっています。

本遺跡は1996(平成8)年から発掘調査が開始され、今回は第16次調査となります。第1~7次調査では遺跡の西半部を調査し、本遺跡の土層堆積状況や利用時期が明らかになりました。第8次調査からは東半部の調査を行っています。これまでの調査で、縄文時代、弥生時代、古代・中世の遺物が出土しており、本遺跡は各時代に断続的に利用されていたと考えられます。

昨年度の調査では、本遺跡の東半部D・E-4区の縄文時代前~早期の層である第4層から、 縄文時代早~草創期にあたる第5層の調査を行い、当時の生活の様子が明らかになりつつありま



第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図 (網掛け部は第I期の調査範囲)

す。

今年度の調査では昨年度に引き続き、D・ E─4区に加え、これまでに縄文時代早~草 創期の土器が出土しているC-4区第5層 や、縄文時代後期の土坑が検出されているE -5区第3層の調査を行いました。今回の調 査を通して、昨年度までの調査では明らかに できなかった各調査区の土層堆積状況が少し ずつ明らかになってきました。また昨年の調 査終了時、E-4区は岩盤近くに達するので はと思われましたが、まだ掘り進められるこ とがわかりました。今期の調査では目立った 遺物や遺構は発見されませんでしたが、今年 度残り2期間の本遺跡の調査の中で、縄文時 代早~草創期、もしくはそれ以前の人々の生 活の様子をうかがえるような発見に出会える よう尽力していきたいと思っています。今後 の成果にご期待ください。また、8月末には 本遺跡にて現地説明会を行いますので、お誘 い合わせのうえ、是非お越しください。



写真 1 発掘調査風景



写真2 遺跡から降ろした土を水洗している ところ

(3年 大村 愛海)

コラム「第Ⅰ期発掘調査を終えて」

今回、私は帝釈大風呂洞窟遺跡の第Ⅰ期発掘調査に参加しました。去年も大風呂遺跡の調査に参加させてもらいましたが、当時の私は右も左も分からない発掘初心者で、先輩や先生のご指導のもと、なんとか発掘を乗り越えることができました。今回は主導的に動かないといけない学年になり、自分がどれだけ成長しているのかが心配でしたが、去年先輩たちがやられていた作業を多少なりとも理解し、行うことができたので安心しています。ただ、まだまだいたらない点が多々あるので精進していこうと思います。

生活面に関しては、洗濯機の排水口を洗面所に出しておらず、先生の部屋まで 水浸しにしてしまい迷惑をかけてしまいました。普段のだらしない生活を露呈す る形になってしまい、反省しています。もとの一人暮らしの生活に戻っても、こ こでの規則正しい生活を実践していこうと思います。 帝釈大風呂洞窟遺跡の第Ⅱ期発掘調査にも参加させてもらうので、頑張ろうと 思います。

(3年 森本 直人)

コラム 「初めての発掘調査」

私は大学で古生物学を専攻しています。大学入学当初は化学を専攻しておりましたが、地学の授業でフィールドワークを行ううちに、地学の楽しさに魅せられ、3年の後期から地学専攻に変わりました。

そのため、今回の帝釈大風呂遺跡の発掘調査が私にとって初めての発掘調査であり、専門知識も乏しかったため、不安いっぱいでの調査スタートでした。しかし、広島大学の皆さんが、調査面だけでなく、生活面についても親切に説明して下さったので、分からないなりにもとてもスムーズに調査を行うことが出来ました。

また、実際に調査を行うことで、研究室に何気なく置いてある動物の化石を発掘するのがどれだけ大変なのかを実感することも出来ました。「発掘調査の最大の敵は暑さと日焼けだ!!」と思っていたのでしたが、実際は虫によって集中力を奪われたり、なかなか遺物が発見できないイライラに襲われたりとかなり敵がたくさんありました。しかし、汗を流しながら皆で一生懸命発掘調査を行うのはとても楽しく、とても良い経験をさせていただくことが出来ました。

私の将来の夢は小学校の先生なので、先生になった時に今回の経験を生かし、 発掘調査を含め、地学の楽しさを伝えたいと思います。

8月9日 河村先生の講演

8月9日に愛知教育大学教授河村善也 先生が宿舎に来訪されました。夕食後に は昨年に引き続き今年も貴重なお話をし ていただきました。石垣島で発見された 約2万年前の古人骨に関連した動物骨に ついて昨年からのデータを用いた最新の 研究を講義していただきました。洞窟内 から検出された動物骨から、隣接する宮 古島と石垣島では動物相が異なることが 明らかとなるそうです。そのため海水面 が低下する時期も含む後期更新世〜完新

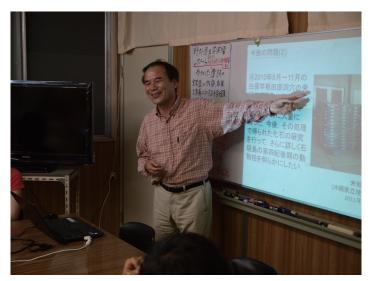


写真3 講義をされる河村先生の様子

世にかけても現在の石垣島は当時も島であったことがわかるということを、動物骨のことがよ

くわからない私達にも理解できるように講義してくださいました。

ネズミやコウモリなどの小さな動物骨からも様々な情報を読み取れることに驚き、発掘調査の際に行っている水洗での細かい遺物や動物骨などの再確認の大切さを改めて実感しました。 大風呂洞窟遺跡は土器や石器などの遺物のほかに様々な動物骨が検出されており、毎年他大学の学生さんも調査に来られていますが、考古学的、古生物学的にも重要な遺跡です。そういったことも噛みしめながら今後の調査に望んでいきたいです。

人物往来

8月8日 福山市立千年小学校5年2組のみなさん 8月9日 同上 5年1組のみなさん

参加者名簿 (I期 8月4日~8月11日)

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀

同上 准教授 竹広文明 同上 助教 谷岡能史

同上 大学院生 小川原励 (M1)

広島大学文学部生 甲斐麻衣 (4回生)·大村愛海·関内由衣·藤井翔平·森本直人 (3回生)

京都大学大学院 小舟みなみ・松崎哲也 (M1)

愛知教育大学 加藤綾子(4回生)

陣中見舞い(50音順)

河村善也先生 缶コーヒー、インスタントコーヒー

教育学研究科支援室 中島由美子さん ジュース 洗剤

福山市立千年小学校様 ブドウ 弥生食堂さん 野菜

また、地元の皆様には、本年度も物心両面でご支援いただいており、感謝々々です。末筆ではございますが、この場を借りてお礼申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

編集後記

本年度も帝釈峡遺跡群の調査が始まりました。8月上旬から帝釈大風呂洞窟遺跡の、8月下旬から佐田峠墳墓群の調査を行います。今年は幸いなことに天候に恵まれており、調査は着実に進んでいます。未だ不明な点はあるものの16年続いている調査によって大風呂遺跡について様々なことがわかってきました。大風呂遺跡の調査の成果は8/27(土)に現地説明会を開催して発表する予定です。お忙しい中とは存じますが、調査の成果を知っていただくまたとない機会ですので、奮ってご参加下さい。

現在Ⅲ期間のうち I 期間が終わっただけです。お盆明けからは II 期の調査が始まります。 II 期からは発掘が初めての 2 回生も調査に参加します。残りの期間で大きな成果があるようにこれからもみんなで頑張っていきます。 (編集 小川原)

広島大学考古学研究室 〒 739-8522 東広島市鏡山 1-2-3 (Tel:0824-24-6663) 帝釈峡遺跡群発掘調査室 〒 729-5554 庄原市東城町帝釈未渡野田原 (Tel:08477-6-0101) 研究室ホームページ URL http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko

現地説明会のご案内 ―帝釈大風呂洞窟遺跡―

8月27日(土) 14時から現地にて(雨天の場合は神石公民館にて開催)